

### 《第50号》 \*\*\* 東日本大震災に際して\*\*\*

東日本大震災から9か月、記念すべき図書館メールマガジン第50号では、今回の被災にまつわるあれこれをお伝えします。

2011年3月11日(金)14時46分頃、本学のある岩手県盛岡市は震度5弱の地震に見舞われました。これまでにない激しい揺れではありましたが、基礎講座の矢巾キャンパス移転が始まっていたこと、春休み中だったことが幸いし、人的被害はありませんでした。停電と相次ぐ余震に1階玄関まで避難し、ラジオで三陸海岸に大津波が来たことを知りましたが、後にテレビで映像を見るまでは、実際の被害の大きさは想像すらできませんでした。週末のうちに停電は復旧し、月曜日からは書庫の片づけが始まりました。本館2,200冊、本町キャンパス16,500冊の落下図書の片づけ作業は、公共交通機関の不通やガソリン不足により、限られた職員のみで2日かかりで完了しました。書架や建物に多少の被害があったもののすぐに開館可能となり、頻発する余震のため利用者は書庫内立ち入り禁止として、雑誌は館員がヘルメット着用で取りに行きました。節電で薄暗い中、暖房が止まり室温最低6℃を記録する中での勤務は、今思い出しても辛く、大変厳しいものでした。4月からは通常業務を開始、道路や燃料供給の復旧とともに図書館間相互利用活動による文献の送受も可能となりました。

本館よりも被害の甚大だった矢巾分館では、47,000冊の落下の他、壁や書架、ロッカーなどの破損もあり、片づけ作業が完了したのは3月23日でした。4月7日の余震でも、17,000冊の落下と書架の破損があり、5月1日まで臨時休館し、復旧作業に追われました。余震や書架の修理の度に図書の片づけを繰り返す作業は過酷でしたが、教職員の応援も得て書庫が復旧できました。二度と同じ被害のないように、書架の耐震装備を含め地震対策の強化を進めています。被災状況は、本学ホームページ (<http://www.iwate-med.ac.jp/infomation/shinsai/hisai.html>)で公開中です。

震災直後より、関連機関・出版社のご厚意により被災地支援のための数多のデータベースやコンテンツの無償提供がありました。3月24日よりそれらをリストアップし、ホームページに緊急サイトを開設、情報収集と更新を続けています。被災した医療従事者に向け、代行検索や文献複写サービスも提供しています。今後は復興のため、被災地医学図書館としての役割を果たしていきたいと考えています。文献提供の面での支援継続はもとより、その時々被災地医療現場のニーズに則した支援を模索していきたいと思えます。

#### \*\*\*図書館トリア\*\*\*

図書館内で被災した場合は、原則として館員の指示に従って行動してください。書庫内でもそれ以外の場所でも1階から外に出て避難するよう誘導します。本館出入り口にはサムターンキーが設置してあるので、非常時にはカバーを壊し解錠して外へ出ることができます。火災等の場合には、本館3階閲覧室、4階廊下にある避難用具で外に脱出することも可能です。矢巾分館では書庫奥の非常口からも食堂に下りられます。

地震の際には、まず書架からできるだけ離れるようにしてください。火災では、一刻も早く煙から逃れましょう。いずれも、慌てず、落ち着いて行動することが大切です。

日頃から非常口や避難用具などの位置や避難経路を確認しておくことをお勧めします。ご不明な点は、館員にお尋ねください。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 [tosho@j.iwate-med.ac.jp](mailto:tosho@j.iwate-med.ac.jp) まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館